



つらい“かゆみ”の 克服をめざして

第43回



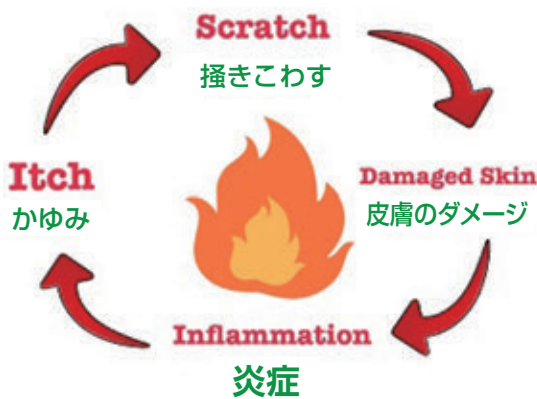
三重病院臨床研究部アレルギー疾患治療開発研究室では、患者様のつらい症状を少しでも良くしたいと願い、新しい診断や治療の開発のために、いろいろな研究をしています。今回はアップルウォッチを用いた夜間の“かゆみ”に関する研究についてご紹介をさせていただきます。



アトピー性皮膚炎と“かゆみ”

アトピー性皮膚炎の患者さんにとって“かゆみ”は一番の悩みだと思えます。

“かゆみ”を感じると皮膚を掻きむしり、皮膚のバリア機能が壊され、炎症が悪化し、再び掻きむしるという悪循環に陥ってしまいます。この悪循環によって皮膚の状態がさらに悪くなるだけではなく、集中力が低下したり睡眠が妨げられたりして、時に学習障害や成長抑制につながる可能性もあります。そのため、“かゆみ”を正確に把握して適切な治療を行う必要がありますが、客観的な評価が難しく、患者さん毎に重症度や原因も様々で、その評価は容易ではありません。



夜間の“かゆみ”についての研究を始めます

そこで今回、アップルウォッチを装着したまま寝ることで、夜寝ている間の掻破回数や時間を記録できるItch Trackerというアプリを使った研究を計画しました。

ご協力いただく患者様(お子さん)には、アップルウォッチを寝るときから朝までつけていただきます。これで、アップルウォッチは寝ているときにどれだけ掻いたかを

記録してくれます。これを1週間続けていただきますが、その間、お子さんの皮膚の“かゆみ”や皮膚の状態について“かゆみ”日記をつけることもお願いします。そして1週間後に、外来を再度受診していただき、アンケートや血液検査にご協力いただきます。これらの情報を収集して、“かゆみ”や皮膚の湿疹の重症度、また血液検査の指標の中で、夜の“かゆみ”と最も反映しているものは何かを検討することで、より良い治療を行うことにつながればと考えています。

アトピー性皮膚炎のお子さんにご協力をお願いします

対象となるのは、アトピー性皮膚炎のため三重病院に入院されている6歳から15歳までのお子さんで、夜間アップルウォッチを装着し続けることができる方であればどなたでも参加いただくことが可能です。アップルウォッチの結果はごらんいただくことができますので、夜中、どれだけ掻いたのかをみて、ふりかえりのきっかけにしていきたいと思います。

ご興味をお持ちいただける方は、ぜひ、外来受診の際に、担当医師にお声かけください。

皆様の研究へのご参加をお待ち申し上げます。

(アレルギー科 岩井 郁子)

